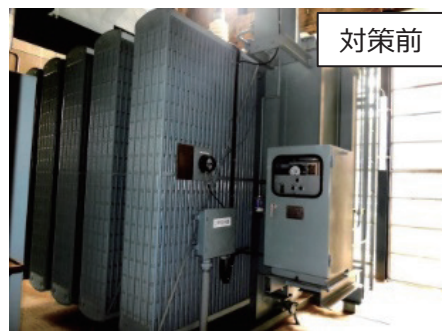


# 老朽化した電気設備の更新により教育・研究の継続性を確保 (京都府京都市)

事業者：国立大学法人京都大学



特高受変電設備（電気を変圧し、京都大学の中央団地と北部団地に供給）



**対策名：**No.119 国立大学法人、国立研究開発法人等施設等の重要インフラ設備に関する緊急対策

**事業名：**京都大学（吉田）ライフライン再生（特高受変電設備）

- ポイント**
- 老朽化により信頼度が低下している受変電設備を更新
  - 地震や豪雨等による被災時にも教育・研究機能の継続を確保

## 地域の概要・課題

特高受変電設備は京都大学の中央団地、北部団地に電力を供給する重要なライフライン設備です。

昭和62年に設置した当設備は経年劣化により故障が頻発している状況であり、部品調達が困難なため、停電事故が発生した場合は停電が長期化し、研究上の貴重なデータを消失するおそれがあります。これまで蓄積されたデータの消失による影響は計り知れず、また、情報インフラの停止が学内外の利用者に被害が及ぼすおそれもあります。

## 事業の概要

特高変圧器を防水密閉型設備へ更新するとともに、ガス絶縁開閉装置及びき電盤を更新しました。

## 【見込まれる効果】

老朽化した機器を更新することで、信頼性の高い電力供給が可能となります。大規模災害発生時には、停電時間を最小限とし、教育・研究の継続性を確保できるようになります。

また、故障時の部品調達も迅速に手配することが可能となり、停電状態を長期化させることなく、教育・研究機能の継続性を確保できます。

